

## 湖を肌で感じる



### 360度 見渡す限り大自然

滑るようにカヌーを漕ぎ出すと、水面との距離はわずか数十cm。少し手を伸ばしただけで十和田湖を肌で感じることができます。

カヌーの魅力は、自分の意思で思いのままに移動できることです。心は湧き立ち、気分は一人の探検者。時には頭上にせまる木々を掻き分け、その先にあるまだ見ぬ何かを見つけるためにカヌーを漕ぎます。

周りを見渡すと、そこには人が造り出した色一つもありません。あるのは空の色、湖の色、そして、木々や大地の色。360度見渡す限りの大自然が目の前に広がっています。

7月1日からオープンする「宇樽部キャンプ場」を発着所としたカヌーツアーを実施しています。

家族や友人とキャンプをしながらカヌー体験をしてみませんか。

宇樽部キャンプ場 ☎ 2477

Nex Green House ☎ 5977 (カヌーツアーに関するお問い合わせ)

※カヌー体験は有料となります。

# 十和田湖へ 行こう



### 近くて遠い十和田湖

「山は富士 湖水は十和田 広い世界にひとつずつ」と、明治の文人大町桂月に詠われた「十和田湖」。四季折々に見える豊かな自然の姿は多くの人を魅了してきました。

皆さんも学校行事や家族との小旅行で十和田湖を一度は訪れ、友人や家族らと遊覧船で湖上を巡り、湖畔を歩きながら「乙女の像」を觀賞したことがあると思います。

近年は交通機関の利便性の向上や個人、小グループ中心の旅行形態への変化などに伴い、地方に住む私たちも簡単に華やかな大都市へ行くことができるようになりました。その反面、身近にある観光地へは足が遠のき、いつしか私たちがとって「近くて遠い十和田湖」となってきたのではないのでしょうか。

昨年度、市では十和田湖畔の振興を目的に、市民を対象とした日帰りバスツアーを計4回実施しました。低料金で参加できることもあり、いずれのツアーも好評を博しました。9月に行われたツアーでは、宇樽部キャンプ場でのカヌー体験や湖畔でのバーベキューなどを楽しみました。カヌー体験はほとんどのかたが初めての挑戦でしたが、あつという間にカヌーの扱いに慣れ、約2時間宇樽部周辺を散策。帰ってきた参加

### 神秘に満ちた パワースポット — 十和田神社 —

乙女の像に行く道のりの途中、整然とした杉並木を抜けると重厚なたたずまいを見せる十和田神社が見えてきます。現在は日本武尊を祭神としていますが、江戸時代までは「十和田青龍大権現」を祀り、現在も奥の院に祀られています。神社は、信仰の地として修験者たちの修行の場でした。近年、静寂として神秘的な雰囲気が人気を集め、多くのかたが訪れています。

また、神社の右手から山中へ約150mほど登った平場からはしごをつたって降りたところ（※）に「占場」があります。

※現在は落石などにより危険なため、降りることはできません。



### 自然観察 名所、新緑、山桜など見所満載 船上から自然を満喫

5月18日に行われた「新緑の十和田湖ぐるっと！船上観察会」に県内外から約70人が参加しました。

現在運行されている遊覧船のコースにはない東湖や北湖を約4時間かけてクルージング。参加者は、ガイドさんの説明に耳を傾けながら、双眼鏡で眺めたり、写真を撮ったりして、普段は見ることができない景色を堪能していました。



▲十和田神社の占場。現在、降りることができないため、貴重な一瞬です。

7月21日(月)に「ワンコインで十和田湖湖上遊覧一周ツアー」を行います。詳しくは号の15ページをご覧ください。



黒沢 郁美さん 大道 瞳奈さん (ともに北里大学生物環境科学科2年生)

船上からの風景は地上から見ると違い、楽しかったです。船から見た野鳥などについて、お客さんからいろいろ教えてもらい勉強になりました。

### 「観る」から「遊ぶ」へ

これまでの十和田湖は自然景観や乙女の像を「観る」のが一般的で、滞在時間が短い「通過型」の観光地となったことが観光衰退の一因として挙げられています。この通過型を、ゆったり、じっくりと観て体験する「滞在型」のスタイルに変えていかなければ十和田湖の振興にはつながって行きません。これからは、新たな観光資源を掘り起こし、十和田湖を「体験」、「体感」できる観光地にしていく必要があります。

今、十和田湖観光に携わるかたがたは、訪れるかたがたのニーズに応えようと、さまざまな「体験メニュー」や新たな「観光スポット」を開発し、十和田湖を「遊ぶ」場にしようと、取り組みを行っています。



▲ツアー参加者はカヌー体験を満喫。十和田湖の新たな「遊び」を発見しました。

者は口々に「楽しかった」、「こんな楽しい遊びがあるなんて知らなかった」と、笑顔を見せていました。